

議員氏名：一石 洋子

議案番号：議案第21～25号

案件名：令和8年度二宮町一般会計予算

令和8年度二宮町国民健康保険特別会計予算

令和8年度二宮町後期高齢者医療特別会計予算

令和8年度二宮町介護保険特別会計予算

令和8年度二宮町下水道事業会計予算

討論内容：

私は令和8年度一般会計予算及び3特別会計、下水道企業会計について、賛成の立場で討論いたします。

一般会計は、委員会の討論で申し上げたとおり、町政にふさわしい、必要な新しい事業が多々ありました。これを評価いたします。

そして、まさに任期中に策定するスケジュールであったこどもの権利条例制定に向けて、裾の広い住民団体のプラットフォームといえる子どもの権利フォーラムと行政との四つどもえによる動きは、全国的な課題であるこども会議の常設を位置づける、不断の努力でつくり続ける、子どもから大人までの人権に資する条例に展開する可能性を感じています。

この予算が否決されますと、4月のこども会議が開けなくなります。

令和7年度の、他市ではまねのできない、独自の、協働の、演劇を含むダイナミックな学びの一環で、数回のシンポジウムが開催されてきました。どれだけの子どもから大人までが汗をかいたか。住民のファシリテーター講座受講者が真剣に、町以外の国等の講座にも何度も参加し、学んだこと、そして、公募した子どもたちの声を豊かに引き出した12月の第1回に続く貴重な2回目の会議です。本会議で全面否決するようになる場合、一体、子どもたちにどう説明できるのか、非常に遺憾です。

令和8年度は、教育委員会主催の講演会に川崎市子どもの権利オンブズパーソンが講師として招かれること、飛騨市の先進の事例も共有する作業療法士が入る保育園、幼稚園から、小学校に広がる研究会が予算化されておりました。多様な学びを担保する、福祉と教育が連携する動きにつながります。これを高く評価いたします。

こども・健康課の自殺対策事業の効果についても、つまびらかに説明いただきました。ぜひ二宮駅でもブースを設けていただきたいと思います。

インフラでは、新庁舎南棟建設、そして、ラディアン改修に係る、この住民のレジリエンスとウェルビーイングに資する重点事業、そして、公共施設総合管理計画策定予算も非常に重要です。ラディアン改修時の代替の居場所の議論は、自治会や子ども会の制度疲労への見直しに資するネットワークを再構築するチャンスです。

総括質疑でも申し上げたとおり、地域集会施設と公園で、子どもの放課後を地域に取り戻し、地域コミュニティ再生に向けてチャレンジすべき機会だと捉えます。

町民課から、自治会の課題の棚卸し研究の結果、令和8年度は防災というテーマで、地域コミュニケーションを収斂するとの説明がありました。子どもは防災、地域コミュニティの核と思います。

ぜひとも行政ならではの有効なファシリテートでコミュニケーションを広げていただきたいと思います。

います。

多岐にわたる重要な自治体の事業です。先ほども申しましたが、議員必携にも、予算は堅実なものであればならず、よほど異常でなければ予算の全面否決は避けるべきとあります。

委員会での反対意見の内容は、漠としていたり、既にある施策の論点であったり、荒唐無稽であったことから、特に町民に誤解を起ししかねない論点について、ここで言及する必要があると考えています。

例えば、新庁舎建設地のボーリング調査で、事業者から岩盤まで35メートルから45メートルあると聞いたとして、砂上の楼閣に反対との弁がありました。行政の説明を聞くまでもなく、厳しい法規に基づく建築工事になることは自明であるため、浅はかな議会発言であると思います。

実際に、50メートル、60メートル級の岩盤くい工も、さらには技術的には、高層建築で100メートルを超える工事も可能である国内技術の状況、二宮の場合は3階建てであることから、全国の多様な35メートル、45メートル級に比較して、難度が高いわけではありません。担当課からも、基本設計では5か所のボーリング調査において、箇所ごとに硬い支持層の深さが異なっていたことから、果樹公園の敷地内では硬い支持層が地面の中で波打っているような想定はあったと聞いています。

4月に受け取る予定の業者からの調査結果を基に、17か所のうち、どこがどれだけの深さなのかを精査させた上で、見込んでいた地盤改良を検討するとともに、対応できない場合の代替工事も多様な選択肢から検討すると説明は受けています。多様な技術的な選択肢については、専門家からも私はヒアリングをいたしました。

フリースクールと認知症を結びつける研究についても弁がありました。この研究が示しているのは、教育年数などの教育達成と、将来の認知症リスクとの関連であり、学校に通っているか、フリースクールを利用しているかといった学びの場の違いを直接比べて結論を出したものではありません。

したがって、研究をそのまま使って、フリースクールを利用すると将来の認知症リスクが高まるといった形で説明することは、論文の執筆者から訴えられるほどの読み違いであり、また、研究の対象となっている世代と今の子どもたちとは教育制度や家庭環境、社会の状況も大きく異なることから、この勘違いを議場で言い立てるのは、フリースクール及び通学する家庭、子どもたちへの人権侵害につながるため、金輪際やめるべきです。

今もある新庁舎建設反対の意見に対しては、ここの庁舎が大地震のときに、崩壊するリスクのほかに道路アクセスの劣悪さ、そして、老築化による維持費増大、エネルギーのロス、さらに不衛生の機能、また、極めつけは県内で4か所の新たな盛土レッドゾーンの指定を受けた立地に隣接すること、さらに言うまでもなく、県内最後に残る3つの未耐震の庁舎であることから、行政の責任として、新庁舎移転事業を行わないことは不作為であること、さらに、現計画の新庁舎計画に勝る代案はなく、議会の承認を受けてきたことがあります。

反対の意見の中に、ふるさと納税の税収の増の議論がありましたが、都市近郊の町にとって、これが未来に向けて、財源確保の中核かのような見立ては、国策である地方創生の本旨とはずれていると思います。しかしながら、新たな法人化された観光協会や新しい商工会のコミュニケーション、循環型農業者のネットワークが見込まれる返納品が開発されており、目に見える改善があります。

国の交付金獲得や企業の補助金獲得の要件になるのは、まさに町の計画であり、二宮独自の先進的創発事業、気候市民会議や子ども権利条例、教育福祉常任委員会が提案するにのみや学園「学びの多様化学校」、さらに東大果樹園跡地に見られる多世代を包摂するコミュニティのウェルビーイング再生への種、これこそが、国の大向こうをうならせるこのまちの創生施策の核であると思います。着実に育ってきています。

生活環境課から、県内でも先進の「にのみや気候市民会議」を大きく打ち出し、国への脱炭素施策へのハードルを下げるよう緊急要望を出しています。地域の防災施策は待ったなしです。危機の様相は深まっています。エネルギーと食について、いま一度、気候市民会議の市民提案のビジョンを広く町内で共有し、体现すべきです。

まさに令和8年度は、これらの種を、上からも、下からも、横からも、国策に訴える総括的なイノベーションのネットワークを広げ、まさに首長も、議会も、住民団体も、事業者も、作戦を持って、二宮社交界のような人間力を発揮するべきフェーズにあります。

にのみや気候市民会議で私が忘れられないシーンは、神奈中やヤマト運輸、ザ・ビッグ二宮店、柳川乳業の事業者の皆様が、オブザーバー参加された会でした。

行政の地域公共交通活性化協議会等の参加される事業者の方々の表情とは全く違うヒューマンな表情でのコミュニケーションがありました。住民ファシリテーターが、ぜひ事業者の方と話したいと行政にお願いして、生活環境課職員が尽力され、実現した二宮ならではの市民会議でした。

議会の役割は甚大です。新しい取り組みには多くの勇気を持った、建設的な、そして、泥臭い、人間らしいコミュニケーションが必要です。議会も、行政とともに、イノベーションに努めるべきではないのか。こんな小さな町で、職員に暫定予算を組ませる前にできることはなかったのか。年間の議会活動で、町民やステークホルダー、県そして国の情報も取り、具体の説得力ある成果を積み上げたのか。積み上げていけば、修正案を用意できたはずです。

議会の予算について、常に予算審査で質疑が盛んに行われることはないのですが、私のほうから二宮町の議員の歳費は生活給でないと説明を受けていましたので、候補者層が限られ、急激な社会の変化に対応すべき議会の議論が硬直化、矮小化する危機を感じていました。

二宮町の場合、特に子育て世代の立候補は副業やむない状況であり、シフト制の事業者や在宅従事者にとっても、3月、9月の活動日の多さがハードルであります。大所高所から、二宮の議会制度の在り方を行政側も研究すべきと要望しました。

町民の負託に応える機能が効果的に示される議会制度設計に向けて、尽力いただきたいと思えます。

ほか3特別会計は妥当、下水道企業会計は幹線管渠の耐震診断や、一級町道10号線の豪雨時の雨水対策の重要な事業費が計上されました。ぜひとも、行政が気になるところは、幹線以外にも並行して調査いただきたい。

雨水タンクは、水道料金削減、雨水の流出抑制、さらに、流域治水の啓蒙と複合的な効果を持つ素晴らしい施策でありますため、令和7年度の雨水浸水想定区域図と併せて評価しますので、ぜひこれを町民の隅々まで広報いただきたいと思えます。

気候市民会議の提案にもある広域の流域治水に資する生物多様性のグリーンインフラの啓発と実装は、新庁舎外構にも十分生かし、条例制定も視野に、各課横断的に取り組んでいただきたい。以上

です。